

現 状 と 課 題

観光客の入込み状況

- 本市を訪れる観光客は、昭和61年(1986年)から平成4(1992)年まで急速な伸びをみせた後、バブル経済崩壊の影響もあり一旦は低下した。その後は持ち直したものの、近年は、1,300万人程度で推移している。
- また、海外からの来客は、延べ宿泊者数でみると、平成5(1993)年度90,205人で、その10年後の平成14(2002)年度には232,072人と2.6倍に増加したが、都道府県別の海外来客の訪問率をみると、平成12(2000)年度で2.7%(16位)にとどまっている。
- 観光やビジネスなどで、より多くの方が本市を訪れることは、本市の基幹産業ともいえるすそ野の広い集客交流産業^注に活況を生み、それが広い分野に波及し、雇用の機会が増えるなど地域の経済振興にとって有力な手段になる。さらに、市民と訪れた方との交流が盛んになることで、新たな文化の創出など様々な効果が期待できる。そこで、現状の来客数を飛躍的に高めていくことが、札幌市にとって大きな課題となっている。

注 集客交流産業：来客への直接的なサービス提供(主なものは、飲食、買い物、レジャー、コンベンション、交通、宿泊)に関連する産業や来客への情報提供(主なものは、観光企画、情報メディア、印刷、通訳)に関連する産業を指す

- 札幌への観光客の入込み時期をみると、夏場や年末年始、雪まつりなどに集中し、この期間のホテルの客室稼働率も高いが、これらの時期以外は、限られた来札者を奪い合うし烈な価格競争が展開され、利益を生み出しにくい状況にある。このため、年間を通じて安定した集客につなげていくことが、本市の集客交流産業全体にとって大きな課題になっている。

集客交流資源の活用・新たな発掘

- 札幌には、藻岩山などの豊かな自然や新鮮な食材、定山溪温泉、四季折々のまつりやイベントに加え、札幌コンサートホール「キタラ」、札幌ドーム、モエレ沼公園など数多くの集客交流資源がある。
- 今後は、来客数を増加させるために、それらにふさわしい付加価値づくりや観光ツアーコースの開発などにより、文化・芸術・スポーツ等のハード・ソフトの資産を積極的に活用し、市民と来客が共に楽しめる新たな魅力を発掘する必要がある。

ホスピタリティ^注の充実

- 札幌への来客数を高めていくためには、まず市民一人ひとりの温かいおもてなしの心と交流に寄せる熱意を育むとともに、各企業がそれぞれの立場で、また、色々な機会を通して、外国人をはじめとする旅行者を温かく迎える環境を整えていく必要がある。
- 国内外の観光先進地と比べ、旅行者に対する歓迎メッセージや、外国語標記が少ないこと、旅行者のニーズに対応した観光情報の提供などが必ずしも十分でないことから、市民、関係業界、行政が一体となってホスピタリティの一層の充実を図っていく必要がある。

注 ホスピタリティ：来客に対して、受入れ側の人々が気持ちよく接し、快適で強い印象と深い満足感を与え、再び訪れたいようにさせる心のもったおもてなし

コンベンション^注誘致・支援の強化

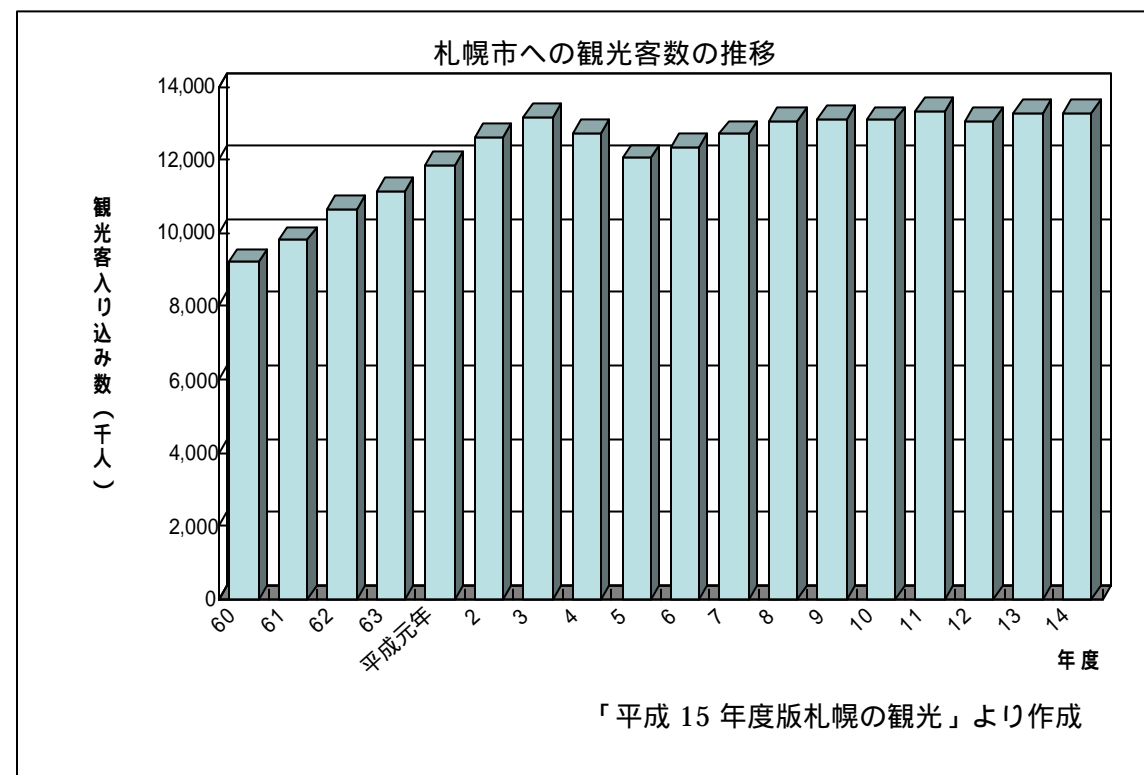
- 集客効果の高いコンベンション誘致をめぐる都市間競争が激しくなる中で、平成15年6月に、札幌コンベンションセンターがオープン。今後より一層、経済効果の高い大規模コンベンション、都市の知名度アップにつながる国際コンベンション、参加者と市民の交流が図れる社会的効果の高いコンベンションの誘致を図る必要がある。

注 コンベンション：大会、会議、展示会、見本市、イベントなどの非日常的な人の集まりを核として、人や物、知識、情報、技術を呼びこむ仕組み

道内各市町村との連携

- 本市は、道内の交通網の要衝となっていることから、観光やコンベンションの拠点機能の一層の強化を図る必要がある。
- また、道内の魅力的な観光地との連携や協力を一層進め、誘致宣伝活動の共同化や情報のネットワーク化、周遊ルートを開発を進めることにより、北海道観光の魅力を高めるとともに、本市での滞在期間の延長を促す必要がある。

参 考 デ ー タ



年	開催月日	名 称	参加国・人数
平成12	11.6 - 11	第55回国際青年会議所世界会議札幌大会	102 地域 8,000 人 (海外 1,500 人)
平成13	9.16 - 21	第7回古海洋学会議	500 名(海外 350 名)
平成14	1.28 - 31	第11回国際冬期道路会議	3,000 名
	5.31 - 6.30	2002 ワールドカップサッカー大会	
	10.13 - 18	第6回DPI(障害者インターナショナル)世界会議	110 力国 3,113 人 (海外 844 人)
平成15	6.30 - 7.11	国際測地学・地球物理学連合総会(IUGG)	77 力国 4,645 人 (海外 2,158 人)
	9.9 - 12	第1回時間生物学世界大会(1st WCC)	550 名(海外 150 名)
	10.31-11.7	アジア野球選手権(兼アテネ五輪予選)	7 力国・地域 250 人

札幌市経済局調べ